

PRESS RELEASE

プレスリリース



報道関係各位

2024年12月2日

カリフォルニアワイン 2024 収穫レポート

～早めの収穫で高い品質～

冬の豊富な降雨量と夏の温暖な気温が、州全体で記憶に残るヴィンテージの舞台を整えました。



カリフォルニアワイン協会（California Wine Institute、略称 CWI）は、2024年のワイン用ブドウの収穫レポートを、以下のとおり発表しました。

雨の多い冬、涼しい春、そして暖かい夏を経て、2024年のカリフォルニア産ワイン用ブドウは、多くの地域で早い時期にその摘み取りが始まりました。収穫期後半に到来した熱波の影響を受け、収量が減少したアペレーションも一部にはあったものの、カリフォルニア中でワイン生産者たちは、2024年は高品質なヴィンテージになると喜びの声をあげています。多くの造り手たちが、このペースの速い生育期と収穫期に対して、好機を捉え、課題を解決するために革新的なアプローチを活用しました。

カリフォルニア州は米国全体のワイン生産量のおよそ80%を占め、世界で4番目に大きなワイン産地です。そのワインの90%以上がサステイナブル認証を受けたワイナリーで生産されていて、約610,000エーカーのブドウ畑のうち65%以上が、同州の指定するサステイナビリティ・プログラム（カリフォルニア・サステイナブル・ワイングローイング認証、フィッシュ・フレンドリー・ファーミング、ローダイ・ルールズ、ナパ・グリーン、SIP 認証）のいずれかの認証を受けています。カリフォルニア州に6,000名近くいるワイン用ブドウ栽培者たちは、100種類以上のブドウ品種を栽培していて、その畑が広がるのは、州内各地にあってそれぞれが個性的な、154ものAVA（アメリカ政府公認ブドウ栽培地域）です。

醸造家、ワイン生産者たちのコメント：カリフォルニアの生育期と収穫期について

ユカイアにある**ボンテッラ・オーガニック・エステーツ**で、ゼネラルマネージャーを務めるジョン・ケインは、メンドシーノ・カウンティでは雨の多い冬の後、寒い春が続いたと報告しています。季節が進むと、夏の暑さのおかげで、ブドウ樹は急速に成長しました。収穫開始は8月7日で、比較的短期間にぎゅっと詰まった摘み取りは、10月中旬に終わりを迎えています。「通常、うちの収穫は11月まで続きます。ハロウィーン前に終了したのは、変化の兆しです」。

今年、黒ブドウの房は小さめだったため、ワインは非常に濃い色合いをしていて、クリーンで果実味が前面に出た味わいとなりました。「収穫タイミングが早かったので、酸度も高くなっています。これは、2024年ヴィンテージは熟成能力に秀でるといえるということです」と、ケインは述べました。

ナパ・ヴァレーのワイン生産者たちも、冬にはたっぷりとした雨に降られています。

「開花までの天候条件は理想的で、健全な果実の収穫へとつながりました」と、セント・ヘレナの**ダックホーン・ヴィンヤーズ**で醸造担当副社長を務める、ルネ・アリーは語ります。曰く、6月と7月の気温は平均を上回り、摘み取りは8月14日に始まりました。9月が終わるまで、穏やかな天候が続いたので、糖度とフレーバーのバランスが保たれたそうです。10月初旬の暑さにより、収穫は急速に終わりへと向かいました。

「美しく深みのある色をしたカベルネ・ソーヴィニヨンとメルロには、凝縮した果実味、ふわふわに柔らかいタンニン、鮮やかな酸味が感じられます。このヴィンテージの果実にはピラジンがほとんどなく、暑い時期を乗りきる際に助かりました」と、アリーは述べました。



コンステレーション・ブランズにおいて、ナパ・ヴァレーのブドウ栽培担当役員を務めるブレイク・ウッドは、果実の量こそシーズン前の予測より若干少なくなったものの、ソーヴィニヨン・ブランとセミヨン素晴らしい品質だと語っています。

セント・ヘレナにある**スポットウッド・エステート・ヴィンヤード&ワイナリー**で、ワインメーカー兼栽培責任者を務めるアーロン・ワインカーフによると、涼しさと暑さ、高湿度と乾燥が交互に訪れた生育条件だったようです。曰く、平年に成熟が早い区画において、2024年は摘み取りが遅かった一方で、平年は生育期の末になってようやく熟する区画が、この年は早くその状態に達しました。

総じてワインカーフは、ブドウ品種を問わず、結果に満足しているのだと語りました。「カリフォルニアは秀逸なヴィンテージにしばしば恵まれますが、今年はまさにそのひとつのようです。果実の個性は卓越しています。望んでいた熟度を実現できましたし、それでいて、ワインに大きな刻印を残す可能性があった過熟の風味を、避けられたと思います」と話しています。堅牢なタンニンがしっかりと骨組みを形作ってはいるものの、他のいくつかのヴィンテージほど、その特徴が前には出ていないとも付言しました。

ソノマ・カウンティはヒールスバークにある**マクロスティ・ワイナリー・アンド・ヴィンヤーズ**で、ワインメーカーを務めるハイディ・ブライディヘイゲンは、8月下旬から9月上旬にかけての厳しい暑さにもかかわらず、ピノ・ノワールとシャルドネの生育状況は実に良かったと述懐しています。「(酷暑で収穫のピッチが早まっているために) タンクの容量が不足しないか、ブドウが干からびないかと気を揉み始めた矢先、急に涼しくなってくれたのです。そこからの2週間で、樹上にあったピノ・ノワールとシャルドネの果実は、水分を吸収して元気を取り戻し、成熟を迎えたブドウが、順序よく均一なペースでワイナリーに運びこまれました。その品質はと言えば、おしなべて目を見張るほどだったのです」。

マクロスティでは、10月1日までに摘み取りを終えたので、その月の後半に訪れた熱波を免れられました。「シャルドネとソーヴィニヨン・ブランの品質には、本当に感銘を受けました。香り高く複雑で、全体的にとっても表現力が豊かです」と、ブライディヘイゲンは評価を口にしています。

モントレイ・カウンティでは、生育期にほとんどあるいはまったく花震いが起きず、平均的な収量が確保できて、腐敗果、ベト病の問題もなかったのだと、ソレダードにある**シャイド・ファミリー・ワインズ**で、業務執行副社長を務めるハイディ・シャイドは語ります。雨が多く涼しい春は、結実にとって好ましい条件へとつながり、そのあと生育期の半ばから終わりにかけては暑い日が続きました。「白ワインでは、品種の特徴が際立ち、ポリフェノールのある香りとのれた酸味が感じられます」と、シャイドは語りました。赤ワインでは、「ピノ・ノワールが群を抜いています」と述べ、実に印象深い複雑性と酸味を備えているのだと評価しています。

パソ・ロブレスの**ホープ・ファミリー・ワインズ**の畑では、生育期のはじめ、冬の十分な降雨でブドウ樹の根が潤い、被覆作物がよい具合に育ってくれました。生育期全体で見ると、房の成長、果粒の成熟、収穫などについて、この地域における典型的な進行と比較して約2週間遅くなっています。摘み取りは平年より約2週間後の、9月に始まりました。

ホープ・ファミリー・ワインズでブドウ栽培担当役員を務めるステイシー・シーは、2024年の収量減少に寄与したいくつかの要因を指摘するにあたり、第一に、パソ・ロブレスの低地で被害が出た春の霜をあげました。8月の高温により、多くのブドウ品種で果粒が小さくなったのも、収量予測値の減少につながっています。10月の熱波のために、収穫が急加速しましたが、結果として収量減にはなれども高品質な果実が得られました。

「今のところ、このヴィンテージは夢のような出来に思われ、素晴らしい色合い、骨格、成熟したフレーバーが見られます。辛抱強く、瓶熟成させるに値するヴィンテージです」と、シーは語りました。

パソ・ロブレスにあるもうひとつのワイナリー、**ダオ・ヴィンヤーズ**の畑でも、冬の雨が多かったため、生育期のはじめに樹勢が強まり、樹冠が旺盛に茂りました。醸造兼ブドウ栽培担当副社長であるホセ・アルベルト・サントスは、涼しい春と穏やかな初夏のあと、7月には2週間にわたる熱波が到来し、レイバー・デー(「労働者の日」という米国の祝日/2024年は9月2日)を過ぎてからも再度熱波が訪れたため、早熟のブドウ品種やクローンの成熟が加速したとコメントしています。

その後は涼しい期間が続いたので、残りの果実については、樹上で過ごす時間が、9月下旬や10月初旬まで伸びました。「気温の高いヴィンテージだったのは間違いありません。いくつか観点で、

2022年や2018年と似ています」と、創設者でありチーフ・ワインメーカーのダニエル・ダオは述べました。さらにダオは、カベルネ・フランの品質について、皆が手本にすべき出来映えだと付け加えています。

ナパ・ヴァレー、ソノマ・カウンティ、メンドシーノ・カウンティ、ローダイ、パソ・ロブレス、サンルイスオビスポ・カウンティ、サンタバーバラ・カウンティ、サンタ・クルーズ・マウンテンズ、テメキュラの地域レポートを含む、2024 カリフォルニア収穫レポート全文については下記リンクのページをご覧ください。

[2024年カリフォルニア州収穫レポートの全文\(英文\)をダウンロードする](#)



カリフォルニアワイン協会（本部・カリフォルニア州サンフランシスコ）は、1,000社を超えるカリフォルニアのワイナリー及びワイン関連企業から構成される非営利団体で、ワインの生産や流通や消費に関する政策的な提言を行っています。輸出プログラムにおいては、世界18カ国に事務所を置き、世界30カ国以上でマーケティングとプロモーションを実施しています。ワイン業界関係者・メディア・消費者向け試飲会の実施などをサポートしており、毎年185以上のカリフォルニアのワイナリーが当プログラムに参加、142カ国にワインを輸出しています。日本事務所は、カリフォルニアワインの普及促進、日本市場における関税、非関税障壁の監視などを目的に1985年に設立されました。

■カリフォルニアワイン協会公式（CWI）ホームページ（日本語） www.calwines.jp

<本件に関するお問合せ先>

カリフォルニアワイン協会（California Wine Institute、略称CWI）PR事務局

担当：今上 貴子（いまうえ たかこ） メール：jpmmedia@wineinstitute.org